



高田商事、国内屈指規模に

創業25周年 前期売上高290億円

高田常務

非鉄原料流通の高田
商事（本社）埼玉県幸手市、高田永清社長）
は、着実な経営を重ねて創業25周年を迎えた。2005年に本社工場を開設して以降

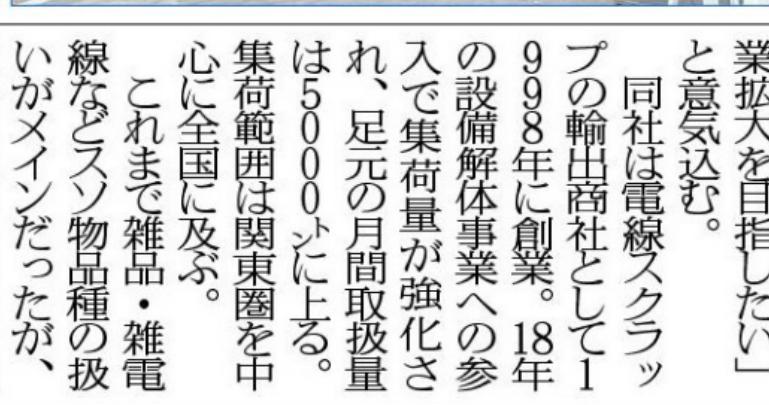
（高田常務）は、被覆電線の輸出だけではなく銅やアルミ、廃バッテリーなど非鉄スクラップ全般に取扱いを拡大。扱い量を順調に伸ばし、非鉄リサイクル業者としても

国内屈指の規模に成長した。23年3月期の売上高は前期比70%増の290億円と過去最高を更新している。高田

（高田常務）は、「今後は経営基盤を一層強固なものにし、SDGsに貢

献しつつ、さらなる事業拡大を目指したい」と意気込む。

設備面では、業務効率向上のために重機の増設や入れ替えも進められる。破碎機やプレス機を増設に加え、SDGs経営推進の一環として、フォークリフトのガソリン式から電動式への切り替えも順次実施している。社内環境の整備が着々と進む中、高田常務は「次なるステップとして、高度な人材育成や新規事業の創出にも取り組んでいきたい」と話す。



が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳

が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳

が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳

が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳

が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳

が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といつた単価の高いウワ物の扱いが増加傾向にある。今後は電気自動車の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は50000トンに上る。集荷範囲は関東圏を中心全国に及ぶ。これまで雑品・雑電線などソラ物品種の扱いがメインだったが、近年は扱い品目の内訳